

vol.45 mar. 2026



# 拓海

「海」を切り拓く匠の業と心

## CONTENTS

2025年度 旅立ち	
卒業特集	
卒業生・修了生のみなさんへ	3
卒業生・修了生から在學生へ	7
卒業、修了する先輩留学生から在學生へ	11
退職の年を迎えて	13
大学院紹介	15
国際交流プログラム	16
業界で活躍しているOB・OGの方々	18
海鷹祭の紹介	20
新任教員の紹介	21
学生の課外活動報告	22
ニュース&トピックス	23
学生相談室からのお知らせ	27
お知らせ	30

## ◆2025年度 旅立ち

## ■卒業特集

## ◎卒業生、修了生のみなさんへ

「Fail Fast, Learn Faster」	井関 俊夫……③
光に満ちた水平線の彼方へ	小暮 修三……④
卒業生・修了生へ	久保 信明……⑤
新たな海へ旅立つ皆さんへ	宮本 佳則……⑤
卒業生、修了生のみなさんへ	北出裕二郎……⑥

## ◎卒業生、修了生から在学生へ

挑戦の先で出会ったもの	佐々木麻衣……⑦
間々の存在の大きさ	関野 未稀……⑦
空に生きるシーマンシップ	瀬谷 向陽……⑧
在学生の皆様へ	瀧本 知颯……⑨
在学生の皆さんへ	山田 和紗……⑨
在学生の皆さんへ	太田 隼介……⑩
在学生の皆様へ	鈴木 花菜……⑩

## ◎卒業、修了する先輩留学生から在学生へ

海を学ぶ東京海洋大学 イ グデ スルヤ シュン ミナガワ……⑪	
充実した留学の日々を振り返って	任 偉林……⑪
DIARY	金 ゴウン……⑫

## ■退職の年を迎えて

「わが人生に悔いなし」	佐野 元彦……⑬
定年を迎えて考える	石井 晴人……⑭

## ■大学院紹介

食機能保全科学専攻	福岡 美香……⑮
応用生命科学専攻	近藤 秀裕……⑮

## ■国際交流プログラム

上海でできた一生の友達と、 忘れられない4か月間	河内 亜依……⑯
シンガポールに行ってみて	西依 秀隆……⑯
異文化の海で見つけた新しい視点	今枝 大希……⑰
上海でのインターンシップに参加して	岡 竜輝……⑰

## ■業界で活躍しているOB・OGの方々

客船の乗組員は専門家集団	田口 稔……⑱
どんな経験も無駄にはならない	矢原 功健……⑲

## ■海鷹祭の紹介

「一度は来てほしい、海鷹祭」	本間 斗星……⑳
----------------	----------

## ■新任教員の紹介

海洋環境科学部門	宮本 洋臣……㉑
----------	----------

## ■学生の課外活動報告

料理研究部	秋山 陽介……㉒
ネットボール部	増田 蕾夢……㉒

## ■ニュース&amp;トピックス

- ・2025年度海洋工学部父母等懇談会 ……㉓
- ・2025年度海洋生命科学部・海洋資源環境学部  
父母等懇談会 ……㉓
- ・「海の日」記念行事を開催しました ……㉔
- ・令和7年度9月期学生表彰授与式を行いました  
……………㉔
- ・令和7年度9月期学位記・修了証書授与式を  
挙行了しました ……㉕
- ・令和7年度10月期入学式（大学院）を  
挙行了しました ……㉕
- ・「水辺活動の安全な実施及び水難事故防止  
のための学習会」の開催について ……㉖

## ■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について ……㉗
- ・令和8年度 学生支援教員 ……㉘
- ・学生相談体制について ……㉘

## ■お知らせ

- ・卓越大学院プログラムの終了報告と海洋AI・  
データサイエンス学位プログラムへの誘い  
……………㉙
- ・キャリア支援センターの取り組みについて  
……………㉙
- ・国立科学博物館および  
国立美術館の利用について ……㉚
- ・緊東京海洋大学 公式X（旧Twitter）を  
開設しました ……㉚
- ・緊急時連絡システムについて ……㉛
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項 ……㉜
- ・悪質な就活商法に関する注意喚起 ……㉜
- ・東京海洋大学校友会のご案内 ……㉝
- ・掲示板 ……㉞

## 表紙写真（星空のもとで）

コンセプト、想い等：昨年海の日記念行事の際に撮影しました。この星空を見て、かつての学生たちはどのような未来を思い描いていたのでしょうか。

越中島写真部 流情報工学科3年 梶野智仁

2025年度 旅立ち

## 卒業特集

# 卒業生、 修了生のみなさんへ

### 「Fail Fast, Learn Faster」

学 長  
井 関 俊 夫

卒業、修了を迎えた皆さん、おめでとうございます。これから皆さんが船出する大海原においても、良い風が吹き続けることを祈念します。昨年、新社会人を対象として実施されたアンケート結果では、自分自身の「成長」が仕事をするうえで最も重要だと回答した人が多かったそうです。皆さんは、どうやったら社会の中で「成長」できるとお考えでしょうか。仕事で多くの成果を上げて、できるだけ「失敗」しないことでしょうか。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は昨年の12月22日、H3ロケット8号機の打ち上げに失敗しました。これまで5回連続で成功していましたので、H3ロケットの商用利用の日も近いと期待されていたところですが。今回は準天頂衛星「みちびき5号」が搭載されていたこともあり、日本の宇宙計画への影響が避けられないとも報道されています。改めて、ロケット開発における品質管理の難しさが実感されました。

イーロン・マスク氏によって設立されたスペースX社では、「Fail Fast, Learn Faster」という開発哲学を掲げているそうです。ロケットが打ち上げに失敗して爆発したときには管制センターでは歓声上がるそうです。失敗することで、次に成功するための情報が多数得られたというわけです。歓声を上げるのはどうかと思いますが、この前向き思考は見習うべきであると思います。「Fail Fast, Learn Faster」という言葉は、元々はリーン・スタートアップ（Lean Startup）での言葉のよう



です。「Lean」とは「無駄のない」とか「簡素な」という意味で、最近よく耳にする「スタートアップ」という言葉は「スケーラブルで再現性のあるビジネスモデルを探索する一時的な組織」と定義されるそうです（在学生で興味のある方は是非、本学の「海洋アントレプレナーシップ養成プログラム」を受講してみてください）。リーン・スタートアップでは、Build-Measure-Learnのループをできるだけ速く回すことが基本原則となるそうで、その意味で必要最小限の実験用モデルを用いた「Fail Fast, Learn Faster」が開発哲学として重要になるそうです。しかしながら、ロケット打ち上げ失敗での損失

は桁外れに大きいでしょうし、50年ぶりに人類を月に送り込もうとする「アルテミス計画」にも遅れが出ている状況で、スペースX社の開発スタッフは相当なプレッシャーを感じていると想像されます。

実は、昨年の「拓海43号」では、民間小型ロケット「カイロス2号機」の打ち上げ失敗を題材として取り上げました。「カイロス3号機」は今年の2月25日に打ち上げが予定されていて、この「拓海45号」が発行される頃は既に結果が分かっていると思います。巨額の投資のもとでの再挑戦ですから、開発スタッフは猛烈なプレッシャーと闘っていると思われます。最先端で仕事をする人々の宿命と言えるかも知れません。是非、成功してほしいと思います。

これから社会に船出する皆さんにも、仕事上でプレッシャーを感じる時がいずれやって来ます。そのような時は「今、自分はこの仕事で最先端にいる」と割り切り、「Fail Fast, Learn Faster」の精神を思い出し、失敗を恐れず前向きに乗り切りたいと思います。東京海洋大学に帰って来て、お世話になった皆さんの指導教員に相談すれば元気が出てくると思います。また、損得抜きでアドバイスしてくれる人をたくさん見つけて話を聞くことも有効だと思います。皆さんの身近には創立23周年を迎えようとする東京海洋大学とその前身である東京水産大学や東京商船大学を卒業した数多くの先輩たちがいます。経験豊富な卒業生のネットワークを利用すれば、失敗した際の損失を最小限に抑えるための助言などがたくさん得られることでしょう。この機会に、本学の同窓会組織である楽水会や海洋会の正会員となって、卒業生ネットワークの一員となることをお勧めいたします。

人の生命や健康に影響しない失敗であれば、必ず挽回できると私は信じています。失敗による損失を取り返そうとする努力が人間をより早く、より大きく「成長」させるのだと思います。「Fail Fast, Learn Faster」の前向き思考によって、皆さんが世界中で活躍される未来がやって来ることを期待しています。

## 光に満ちた水平線の彼方へ

海洋生命科学部長

小暮修三



皆さん、ご卒業・ご修了、おめでとうございます。皆さんは本日、東京海洋大学という母港を離れ、いよいよ社会という大海原へと船出する時を迎えました。今日という日は、これまでの経験や努力を胸に刻むと同時に、新たな航海の始まりを告げる、特別な一日となります。

皆さんが本学で過ごしてきた日々は、穏やかな風ばかりではなかったことでしょう。様々なことに迷い、思ったようには進めず、その場に留まることを余儀なくされた時もあったはずで、嵐に遭遇して座礁しかけたこともあったかもしれません。しかし、その一つひとつの時を克服してきたことこそが、皆さんの心を強くし、確かな知識と技術、そして判断力を育んできました。

本学で得た知識や技術は、いわば海図であり羅針盤です。それだけで航海が自動的に進むわけではありません。それでも、自らの進むべき方向を示し、たとえ困難な状況の中でも冷静な判断を支えてくれる、かけがえのない道具となります。さらには、仲間とともに学び、語り合い、時には仲違いをしながらも支え合った記憶は、これからの長い航海の中で、心を照らす灯台となり、皆さんを不安や困難から守ってくれることでしょう。

これから皆さんが進む社会という大海原は、歴史的にも急激な変化を迎えつつあり、予測の難しい荒れた海になりそうです。逆風の中で忍耐を試される時もあるでしょう。思い描いていた航路を変更せざるを得ないことも、目的地を見直すこともあるかもしれません。しかしながら、航海とは常に計画通りに進むものではなく、その困難や変化の中にこそ、新たな挑戦や成長が生まれます。

どうか、自らの本学での経験や努力に誇りを持ち、自らの判断を信じて航海を続けてください。同時に、仲間の声に耳を傾け、必要なときには助けを求める勇気も忘れないでください。皆さんのこれからの航海が、新たな学びや挑戦に満ち、そして光に満ちた水平線の彼方へと続くことを信じています。あらためて、ご卒業・ご修了、おめでとうございます。

## 卒業生・修了生へ



海洋工学部長  
久保 信明

卒業生のみなさん、おめでとうございます。みなさんは、東京海洋大学の海洋工学部で学び、努力を重ねてきました。入学時より多くの課題と演習をこなし、無事卒業の資格を自らの手で勝ち取り新たな一步を踏み出すことを心から祝福します。

大学での学びは、知識や技術を身につける場であると同時に、自由な時間もある程度あるため、バイトや友人との旅行など様々な経験ができた時期だったと想像します。その中で自分自身の「軸」や「得意なこと」を見つける時間でもあったと思います。これから社会に出ると、これまでの学生時代とは異なる世界が待っていて、社会は、試験の点数や成績表で評価されることは少なく、ある意味実力が見られます。現場で何ができるのか、どのように価値を生み出せるのかが問われます。

そのときに大切なことは、さきほどの「自分の軸」「自分の得意なこと」を理解し、それを継続して磨き続ける姿勢です。自分ならではの強みを持ち、それを自然に発揮していけば、周囲より必要とされていくでしょう。技術、分析力、現場感覚、コミュニケーション力なども必要とされます。同時に、忘れてはならないのが人間性です。どれほど優れた能力を持っていても、周囲から信頼されなければ、スムーズに仕事ができなでしょう。誠実さ、相手の立場を考える姿勢、わからないときは先輩に質問する姿勢、困難な場面で逃げずに向き合っていく等、社会に出て時間をかけて身につけていくものかもしれません。そしてそれこそが、長い人生を支える確かな基盤になります。

仕事が一段落したら、新たな縦の繋がりを作るために可能であれば大学に足を運んで下さい。大学にとって卒業生はいつでもWelcomeです。出身研究室でもよいし、指導教員の先生のところでもよいです。みなさん一人ひとりの今後の活躍を、学部長として、そして一人の先輩として、心から期待しています。

## 新たな海へ旅立つ皆さんへ



海洋資源環境学部長  
宮本 佳則

卒業生・修了生の皆さん、このたびはご卒業、修了おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い申し上げます。

皆さんが本学に入学された2022年は、世界が長いコロナ禍から回復へと向かい始めた節目の年でした。入学当初は講義や実験・実習の多くが制限を受け、思い描いていた大学生活とは異なる形でスタートした方も多かったことでしょう。対面授業の段階的な再開やキャンパス活動の復活を迎えるまでには、不安や戸惑い、そして多くの調整が必要でした。しかし、そのような環境の変化に柔軟に向き合い、自らの学びを丁寧に積み重ねてきた姿勢は、私たち教員にとっても大きな励みでした。

大学生活が本格的に活気を取り戻した後、皆さんは実験・実習科目、フィールドワーク、乗船実習など、本学ならではの学びに積極的に取り組みました。海洋観測技術の習得や海洋環境データの解析、資源管理の課題へのアプローチなど、海洋資源環境学部ならではの幅広いテーマに挑戦し、それぞれの専門性を深めてきたことと思います。また、研究室での日々、仲間と協力しながら試行錯誤を重ねた経験は、皆さんの成長を大きく後押ししたことでしょう。

この4年間の間にも、海洋を巡る情勢は大きく動きました。地球温暖化による海洋環境の変化、国際的な水産資源管理への関心の高まり、洋上風力やブルーカーボンを含む海洋エネルギー・環境政策の新展開、さらには海洋観測技術の高度化など、皆さんが学んできた分野は社会の中心的課題と強く結びつくようになっています。卒業研究などで皆さんが取り組んだ成果は、これらの課題に向き合う上で極めて重要な知識と姿勢を養ったはずですよ。

これから歩む道は、進学、就職、専門分野の継続、あるいは全く新しい世界への挑戦と、人によってさまざまでしょう。しかし、困難な環境を乗り越え、変化する社会の中で自らの学びを確かなものとしてきた皆さんには、どのような道でもたくましく歩いていける力があると信じております。本学で得た経験を武器に、どうか自分の選んだ道に誇りと自信を持って進んでください。最後に、皆さんのこれからの人生が、海のように広く、深く、豊かなものであることを心より願っています。改めて、卒業・修了おめでとうございます。

## 卒業生、修了生のみなさんへ



海洋科学技術研究科長  
北出 裕二郎

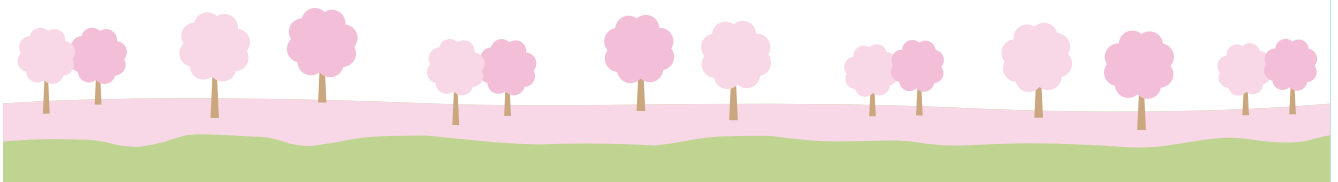
この度は、卒業・修了おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、これから社会に旅立つ皆さんは、本学で将来に向かって興味を持てることを見つけることができましたでしょうか？本学で学んだことがそのまま活かせ、それがさらに興味のあることであった場合は非常に幸せです。しかしながら、本当に興味のある世界に向かって羽ばたける人は必ずしも多くはないかもしれません。また、やりたいことが沢山ありすぎて選びきれない人もいることでしょう。今やりたいことが見つからなくても、それを見つけることを目標に、いろいろなことに興味を持ってみるのも良いかもしれません。

皆さんはこれから様々な分岐点での選択肢に出会うことと思いますが、そこでの選択が結局は将来の自分になっていきます。つまり、様々な選択を選べるという点で、皆さんはそれぞれ唯一無二の人生の主人公であり、責任者です。ですから、その時々で出会ったチャンスにはどんどん挑戦してみてください。かくいう自分も、最近、専門外のことを勉強しなければならぬことが多くなり、もっと勉強し挑戦しておけばよかったと思う一方で、いまさらながらに入門書を読んだりもします。

海洋大出身である皆さんは、社会に出るとそれぞれ専門の研究以外の海に関することを聞かれて困ることもあるでしょう。在学中に勉強しておけばよかったと思うかもしれませんが、そんな時は迷わずまた大学に来て、先生を頼ってみてはいかがでしょうか。年を取ると世の中の繋がりが徐々に分かって来るものですが、皆さんも今わからなくても、ある時突然、悟る瞬間が必ず訪れます。そのような時、「あの時あれをしておけばよかった」という後悔ではなく、「あの時のあれがこれなんだ」という発見と捉え、学びなおすと楽しいと思います。

社会に出たら大学時代以上に学ばなければいけないことが多くなりますし、むしろそうであってほしいと思います。それまで興味がなかった事にも目を向け、感性や価値観を育て、精進していただきたいと思います。分岐点に出会ったときは、是非とも良い選択を忘れずに！それでは皆さんのご健勝を期待しております。



2025年度 旅立ち

## 卒業特集

# 卒業生、 修了生から在学生へ

### 挑戦の先で出会ったもの

海洋生命科学部 海洋生物資源学科4年

佐々木 麻衣

私は小学三年生の時にモンガラカワハギに一目ぼれをしてから魚が好きで、その時から海洋大を目指し、今こうして憧れだった海洋大を卒業することができました。大学生生活を振り返ると実に様々な経験をしたように思います。水産生物研究会や海洋研究会では魚の採集や標本を作成し、NPO法人の活動や水族館のボランティア活動にも参加しました。特に水産生物研究会では、実際の海でみる魚の美しさやその生態の不思議さに何度も心が動かされ、活動の中で得た記録をもとに論文を執筆させていただく機会にも恵まれました。また、教職課程(理科、水産)学芸員課程を履修する中で、教育について学び、実習では多くの方と出会い、講演の機会もいただくことができました。

これらの経験を通じて強く感じたのは、「何事にも挑戦すること」が大切であるということです。私自身、新しいことを始めるときにその大変さから躊躇してしまう



こともありました。しかし実際にやってみると想像以上に楽しく、そこで出会った人々からさらなる挑戦の機会をいただき、大変刺激的で、かつ充実した日々を過ごすことができました。

大学4年間はあっという間に終わってしまいます。たくさん挑戦して、たくさんの人と出会い、楽しく充実した学生生活を送ってください。

### 仲間の存在の大きさ

海洋生命科学部 食品生産科学科4年

関野 未稀

食品生産科学科では、食品について幅広く学ぶことができます。これは、他の大学にはない、東京海洋大学ならではの大きな特徴だと思います。その中で、学生一人ひとりが自分の興味を見つけ、知識を深めていくことができる環境が整っています。

学年が上がるにつれてカリキュラムがより実践的になり、難易度も高くなっていきました。実験や授業、レポート課題に追われる日々で、当時の私は目の前のことをこなすのに必死でした。また四年生になり、研究活動が始まってからは、タスクの多さに行き詰まることもありましたが、今できることを一つずつ取り組み日々を過ごしてきました。

そんな中で、気がつくと同じように課題や研究に向き合う仲間の存在がありました。忙しい毎日に疲弊することもありましたが、共に頑張っている友人がいるとい

うことだけで自分も頑張ろうと思えました。このような仲間が大学生活において大きな心の支えとなっていました。特に東京海洋大学では、同じ「食品」に興味を持っている友人がたくさんいるため、同じ目標に向かって切磋琢磨できると思います。

私は大学生活を通して一人で頑張るのではなく、誰かと一緒に頑張ることの大切さに気づきました。在校生の皆さんも、ぜひ周りの人とのつながりを大切にしながら、それぞれの学生生活を歩んでほしいと思います。皆さんの今後の学生生活が充実したものになるよう心から願っています。



「研究室にて」

## 空に生きるシーマンシップ

海洋工学部 海事システム工学科4年  
瀬谷 向陽

私は4月から、某国内航空会社に自社養成パイロットとして入社します。中学生の時にパイロットに憧れたのですが、調べると適性や身体検査等かなりハードルが高い仕事だと知り、国際物流という共通性から航海士が選択肢に入り、東京海洋大学に入学しました。

そして、入学後に船の面白さや、海運が人々の生活の基盤を支えるというスケールの大きさに惹かれ、「航海士」を進路のひとつとして実験や実習に積極的に取り組みました。乗船実習では班長や出入港部署の役職を務め、実習終盤には士官の方からお褒めの言葉を頂けた程、真剣に取り組みました。

海事システム工学科の実験や乗船実習は専門的で、海

運業界でしか通用しないと思われがちです。実際、当時の私は船舶に関する実験や乗船実習が、夢であるパイロットに役立つという実感はありませんでした。

しかし、大学2年次から始めた国内航空会社の就職活動中のインターンシップ・エントリーシート作成・面接の中で、大学での実験や乗船実習で学んだ考え方には、他大学では得難い「シーマンシップ」に代表されるリーダーシップやチームワークの要素が数多く内包されていると感じました。

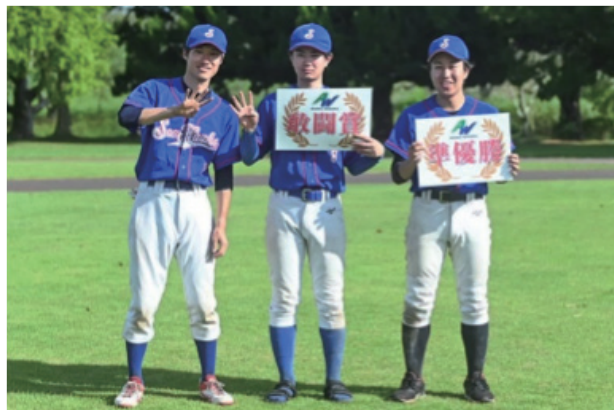
現役機長との面接においても、私が実験・実習で友達同士が事前に作戦を立て攻略法を共有したことを話した際、機長は「パイロットは特にそうだけど、そういうチームワークは、どの職業でも絶対必要だと思うよ」とお話しされていました。

また卒業研究では、航空機の自動着陸システムを船舶の自動着舷に応用する研究に取り組みました。専門分野にとらわれず、自身の関心を活かした研究に挑戦できる環境が海洋大にはあると実感しました。

海洋大の恵まれた実験実習環境、そして何より協調性に優れた友人たちのおかげで、私は自社養成パイロットに合格できたと実感しています。

実験実習だけでなく、軟式野球部での活動や海技士試験の勉強等、海洋大の4年間の様々な経験を糧に、空の安全を担えるパイロットを目指して、これからの訓練に臨みたいと思います。

海洋大の皆さんには、船乗りを志す方はもちろん、そうでない方も、単位や免許のためだけでなく、人生で今しかできない勉学や課外活動に積極的に励んでいって欲しいと思います。そして授業を含め、困難な局面では、ぜひ友人たちに悩みを打ち明けながら、力を合わせて乗り越えていってください。



軟式野球部の同期とともに(筆者：一番左)

## 在学生の皆様へ

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年  
瀧本知颯

在学生の皆さん、こんにちは。

突然ですが、皆さんはどんな思いで東京海洋大学に入学し、今どんな毎日を過ごしているのでしょうか。私が4年間を振り返ると、乗船実習、カッター部のマネージャー、海王祭実行委員会、フィリピンでのインターンシップ、社会人野球チームと本当に色々なことに挑戦した大学生活でした。どれも最初は不安や戸惑いがありましたが、一歩踏み出したからこそ見えてきた景色や出会いがたくさんありました。

特に海王祭実行委員会では、コロナ禍で中止が続いていた中、4年ぶりの対面開催を実現させることができました。初めて経験する大規模な準備や調整に苦労することも多くありましたが、仲間と一緒に乗り越えて成功させたあの日の達成感は、今でも心に残っています。

挑戦すると、大変に思える瞬間は必ずありますがそのひとつひとつを乗り越えた先には、新しい仲間や経験、そして想像していなかった自分の成長に出会うことができます。挑戦の価値は、あとになって必ず実感できます。振り返ったときに、「あのとき頑張ってたな」と思える自分にきっと出会えるはずですよ。

大学生活は、自分の可能性を広げる最高の舞台です。少しでも心が動くことがあれば、その気持ちに素直に進んでみてください。小さな一歩が、大きな未来につながります。

皆さんのこれからの大学生活が、充実したものとなることを心から願っています。応援しています。



部活動の様子(本人)

## 在学生の皆さんへ

海洋資源環境学部 海洋環境科学科4年  
山田和紗

「新しい世界を楽しんで。」

大学入学にあたり、祖母は私にこんな言葉を送ってくれました。当時はそれを特に深く受け止めることもなく、新生活への期待と不安を胸に海洋大の門をくぐったことを覚えています。

海洋大は「海」に特化した専門性の高い大学です。周囲を見渡すと、やりたいことがはっきりしている人や、好きな分野にまっすぐ向き合っている人ばかりに見えました。海や生き物への漠然とした興味で入学した自分には確固たる目標がなく、周囲と比べて焦りを感じることも少なくありませんでした。

そんな私の大学生活は、入学時には想像していなかった経験の連続でした。ダイビングサークルに入り、海の世界の楽しさを知ったこと。海外実習に参加し、言葉や文化の違いに戸惑いながらも、多くの刺激を受けたこと。研究で離島を訪れ、現地での調査を通じてたくさんの方々に出会えたこと。振り返ってみると、そうした数多くの経験が自分の世界を確かに広げてくれていました。

海洋大で過ごす日々には、少し前の自分が想像もしていなかった出会いや経験が数多く待っています。そうした積み重ねの中で、いつの間にか新しい世界へ踏み出していることもあるでしょう。在学生の皆さんには、やりたいことが見つかっていなくても焦らずに、さまざまな経験に触れてほしいと思います。思いがけず飛び込んだ新しい世界で自分なりの答えが少しずつ形作られていくはずですよ。

皆さんの今後の大学生活が充実したものになるよう、心から応援しています。



伊豆でのダイビングにて

## 在学生の皆さんへ

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科4年

太田 隼介

在学生の皆さん、こんにちは。皆さんは今、どのように大学生活をお過ごしでしょうか。部活やサークルに明け暮れたり、勉強に取り組んだり、趣味に没頭したり、様々な過ごし方をされているかと思います。私は講義の単位を落とさないよう程々に勉強しつつ、バイトや趣味にほどほどに取り組む、大学生活をぼんやりとしたまま過ごしていました。

しかし、4年生になり研究室に配属されたことで、私の生活は一変しました。これまでの教科書の内容を辿る勉強とは異なり、研究は自ら疑問を立て能動的に探求していく学習でした。失敗を重ねながら実験に取り組み、改善を行えば新たな問題が生じ、先生や先輩と議論を行う日々。地道な作業の連続でしたが、研究に没頭する時間を過ごすことができました。また、研究内容を外部で発表できたことはとても有意義な経験となりました。この経験を通じて、困難な課題に対して粘り強く向き合う自信と、物事を論理的に考える力が養われたと感じています。

海洋大には、卓越した専門性を持った先生方や、様々な実験設備や実習船、そして助け合える仲間という素晴らしい環境が整っています。もし、やりたいことが特に無く漠然と日々を過ごしている人がいたら、目の前の課題や部活動などに全力で取り組んでみてください。ひたむきに没頭することで広がる世界があると思います。みなさんが大学生活で、新たな発見を得られることを心から応援しています。



研究室のメンバーと旅行

## 在学生の皆様へ

海洋科学技術研究科 食品流通安全管理専攻2年

鈴木 花菜

大学生・大学院生の本分は研究や勉強ですが、多くの人にとっては学生でいられる時間はかけがいのないものだと思います。皆さんはやりたいことや興味のあることをやり尽くしましたか？

私は海の大学ならではの魅力に惹かれてヨット部に入部し、学部4年間注ぎ込みました。家族よりも長い時間を部員と共有し、1日の殆どの時間を海上で過ごす中で、たくさんの学びや経験を得ることができました。

引退後、修士課程に進んでからは研究に軸足を移し、同期先輩がいない中で新しい研究テーマに取り組みました。思うように進まず不安な時期もありましたが、優秀な後輩に恵まれ、目標としていた学会発表や論文投稿を経験することができました。その中で、ご縁があって大学院でもヨット競技を再開し、部活動現役時代には想像もしていなかった全日本や世界の舞台に立つ機会にも恵まれ、一生の思い出になりました。

研究でも、部活・サークルでも、アルバイトや留学、ボランティアでも、学生である今だからこそ思い切り挑戦できることがきっとあると思います。うまくいかなかったとしても、その過程で新しい出会いや、自分でも予想しなかった経験が得られるはずです。

気づいたらもう卒業、あっという間の学生生活でした。学生真っ只中の皆さん、ぜひ研究や勉強に全力で取り組みながら、学生の今だからこそ、好きなこと・興味のあることに、気が済むまで挑戦してみてください！



「Snipe Woman's World 2025」  
(センターの水色のシャツが本人)

2025年度 旅立ち

## 卒業特集

# 卒業、修了する 先輩留学生から在学生へ

### 海を学ぶ東京海洋大学

海洋生命科学部 海洋政策文化学科4年

イ グデ スルヤ シュン ミナガワ

私は海洋生物について知識があったわけではありませんが、「何となく海が好き」という気持ちから、人文科学の視点で海を学びたいと考え、政策文化学科を志望しました。そして、入学してみると、同じように「何となく海が好き」で入学した人もいれば、魚に詳しく、釣りが趣味で、魚を捌くのが得意という人も多く、そうした人から大きな刺激を受けました。影響を受けて釣りを始め、釣った魚を捌き、少しずつ魚の名前や海への理解を深めました。

このような活動は、主に同じ学科の友人と行っていましたが、部活動やサークルなど、学内には海に関わる多様な活動の場があります。私は「自分の知識や経験では迷惑になるのではないか」と考え、参加をためらってしまいました。しかし今振り返ると、海や魚に限らず、興味を持った活動にはもっと積極的に参加すればよかったと感じています。その思いもあり、3年次の夏には学内で得た情報をきっかけに、友人と利尻島で昆布干しのアルバイトに参加しました。約1か月間、座学ではなく、一次産業の現場を体験したことは、海を身近に感じ、学びを実感する貴重な経験となりました。

海洋大学には、授業や実習だけでなく、学内外で海を多角的に学べる機会が数多くあります。在学生の皆さんには、ぜひ一歩踏み出し、さまざまな体験を通してより深く海を知り、そして海をより好きになってほしいと思います。

### 充実した留学の日々を振り返って

海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻

任 偉 林

私が東京海洋大学で学ぶ中で感じたのは、海洋大生は首都・東京の地の利を活かして、学内だけでなく学外での様々な人との交流が、とても大切だということです。

留学生の皆さんは、折角の日本留学中において、留学生だけでなくまとまるのではなく、ぜひ日本の様々な人や社会と、積極的に関わる機会を自分から作っていただきたいと思っています。また、日本人学生の皆さんも、ぜひ積極的に留学生と話していただければ嬉しいです。いろいろな人と交流することで、お互いに学び合えることがたくさんあると思います。

私は、2022年4月に東京海洋大学にやってきました。当時は大連海洋大学からの交換留学生として、海洋工学部・流通情報工学科で1年間学びました。中国では情報工学を専攻していましたが、海洋大での授業を通じて、物流とITが融合した分野に強く惹かれました。

そして、これからの社会では、複数の専門性を持つ人材がより求められると感じ、日本での就職も視野に入れ、大連海洋大学卒業後の2023年10月に再来日し、東京海洋大学大学院での学びを始めました。

東京海洋大学での生活は、とても充実していました。海王寮に住んでいたことで、研究室へのアクセスもよく、学業に集中できる環境が整っていました。

学外活動では、越中島キャンパス近くの深川スポーツセンターでのテコンドーサークルに所属し、以前から続けていたテコンドーを地域の方々と一緒に練習する機会を作りました。初めは言葉の不安もありましたが、練習

を重ねるうちに日本語にも慣れ、世代や職業の異なる仲間と交流する中で、多くの価値観に触れ、自分の視野も広がったと感じています。

大学院では、限られたスペースに効率よく荷物を積む「装箱問題」を中心に、物流の効率化を目指す研究に取り組みました。そして、日本オペレーションズ・リサーチ学会での発表も経験しました。

また、コンビニ・図書館・授業補助・年末年始の海王寮の管理業務など、様々なアルバイトを通じて、日本社会のしくみや働き方を、肌で感じることができました。

私はこの春から、愛知県にあるトヨタ紡織株式会社に入社します。トヨタグループの一員として、今後は物流の視点からトヨタ生産方式（TPS）に関わる業務に携わりたいと考えています。大学院で学んだ最適化やロジスティクスの知識を活かし、現場の物流システムの改善に貢献することが目標です。将来的には、日本と中国、そして世界をつなぐ国際人材として成長していけるよう努力して参りたいと思います。



海洋大の仲間と道場で（筆者は右）



明治丸を背景に学位記を抱えて

## DIARY

海洋科学技術研究科 海洋生命資源科学専攻2年

金 ゴウン

6年前のダイアリーを読み返すと、そこには東京で暮らし始めた頃の印象が残っていました。頻繁に通り過ぎる飛行機、町のあちこちで見かけるカラス、そして想像以上に強い風。私が東京海洋大学に入学する前まで暮らしていた韓国・ソウルは、空港から遠く、ハトが多く、風も穏やかでした。だからこそ、初めて日本で生活を始めた私にとって、目に映るすべてが書き留めたくなるほど新鮮でした。

ダイアリーには、私の留学生活の日々が記されています。日本で初めて食べたもの、日本人学生に教えてもらった日本語表現、授業や実習で学んだこと。一人で銀行や区役所に行った日も、実験魚が事故で死んだことも、忘れないように書いていました。さらに、アルバイトをしながら、課題に追われながら、授業を受けながら、人と話しながら、そのとき自分が何を考え、何に悩み、何をしたかったのか、、、自分の正直な気持ちも、そのまま綴られています。

こうして振り返ると、留学で新しい場所に飛び込み、何かに挑戦することは、自分自身を知る大切な機会だったと感じます。慣れない環境の中で出会った人や経験が、知らないうちに自分の性格や価値観、好みを少しずつ形づくっていました。

在学生のみなさんへ。

誰かに見せるためではなく、自分のために、日本での、海洋大での、ありのままの気持ちや日常を記録してみてください。うまくいかない日も、不安でいっぱいの日も、そのまま大丈夫です。その記録は、留学生活の支えになり、そしていつか海洋大や日本を離れるとき、振り返ることのできる、かけがえのない特別で面白い思い出になるはずです。



## 退職の年を迎えて

### 退職なさる

# 教職員の方々より一言

#### 「わが人生に悔いなし」

海洋生物資源学部門 教授

佐野元彦

本学の前身である東京水産大学の博士課程で魚の病気に関する研究を行って修了し、バブルはじける直前に会社に就職し、魚用の薬品の開発研究に従事しました。5年間でブリの薬を開発したところで、水産庁の新しい研究所が石垣島にできるということで、採用していただきました。当時はまだ終身雇用という意識が強いころでしたが、漁業者等に役立つ基礎的な研究をしたいと考え、思い切って転職を決断しました。国の研究所（現在の水産研究・教育機構）では、主に魚病の行政対応に関わる研究を中心に行いました。だんだんと自身の知識・技術・経験を誰かに伝えたいと思うようになり、13年前に本学に採用していただきました。三重県の自宅に愛する家

族を残し、単身赴任になってしまうのを覚悟した上での転職でした。本学では学生の皆さんと研究を通じて本当に楽しい日々を過ごしました。一緒に実験計画を考え、結果を受けてまた考える。新しいことが分かりれば、次に何をすれば、何がわかるか、結構、ワクワクします。一緒にやってくれた学生の皆さんに心から感謝です。実験では、何か処理した区としない対照区を必ず設けて、その処理が及ぼす影響を明らかにしていきます。私は2回の転職をしたわけですが、その対照区はありません。まあ分からないのが人生というものでしょうけれど、よく考えた上で、やりたいことは思い切って挑戦してみればよいのではと思っています。わが人生に悔いなし、です。皆さんにもこれから幾度も人生の分岐点があると思います。大学でいろいろな知識や経験を積んで、その分岐点での適切な決断に活かしてください。



## 定年を迎えて考える

海洋環境科学部門 准教授

石井 晴人

このたび、私は3月末日をもって、東京海洋大学を退職することとなりました。思えば、大学4年生で始めた海洋生態学の研究が、定年まで続けることができるとは、当時は全く思いませんでした。

私が海の世界に興味を持ったのは当時在学していた筑波大学時代で、そのときの研究内容は湧昇と植物プランクトンの研究です。ただ筑波大学には外洋に出られるような研究船はなく、海への憧れは自然と当時の東京水産大学へと向けられ、大学院では幸いにも海鷹丸の南極航海に乗船することができました。実は、海外に渡航したのもこの南極航海でのシンガポール上陸が初めてでした。博士の学位は東北大学でカイアシ類の研究で取得し、就職先の水産庁遠洋水産研究所で再びナンキョクオキアミの資源研究で南極航海に乗船しました。その時に始めて南極大陸の近くの島に上陸し野生のペンギンやゾウアザラシに囲まれたのはいい思い出です。

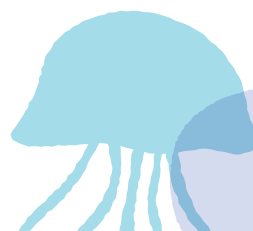
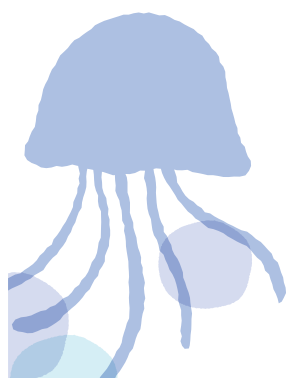
東京海洋大学に異動してから、始めて「クラゲ」という不思議な生物の研究に携わりました。当時、プランクトンの世界では、クラゲ類は単に網に入ったら邪魔なもの、というだけの認識で、研究者の数も非常に限られていました。学名すら全く知らなかった生物を対象に研究を続けていいのだろうか、とも考えました。ただ、当時からクラゲ類の大量発生が社会的に問題となりつつあり、クラゲ大量発生に関する国際シンポジウムも開催されました。このシンポジウムは現在も続いており、今

年は第8回目の開催となります。クラゲ類に関する研究は、2000年代のエチゼンクラゲの日本海への大量来襲がピークとなり、一気に研究活動も活発となり、社会におけるクラゲ類への認識も高まったと感じています。同時に、もともと海洋生態学一般にも興味を持っていたため、身近な海である東京湾における、特に付着動物の調査も同時に始めました。これらの調査を通じて、学生諸君を始めとする大学関係者のみならず、水族館など民間の方々とも大いに交流を持てたことは大きな宝であると思っております。

退職後は、海洋生態学には関わり続けていきつつ、新たなことに挑戦し、これからも自分自身を磨き続けたいと考えております。



ナンヨウミズクラゲの調査で訪れた小笠原村父島の中山峠にて背後に南島を望む



# 大学院紹介

## 食機能保全科学専攻／応用生命科学専攻

### 食機能保全科学専攻 —博士前期課程—

海洋科学技術研究科 食機能保全科学専攻主任／教授  
福岡美香

海洋科学技術研究科・食機能保全科学専攻は、海洋生命科学部・食品生産科学科で培われた基礎教育を基盤として、より専門性の高い実践的な学びを通じて、高度専門職業人等の養成を目指す博士前期課程の専攻です。教育・研究の領域は、水産食品を中心とする各種食品の安全性の確保・向上、栄養・保健機能の解明、食品品質の最適制御など、多岐にわたります。専攻は大きく「食品保全機能学」と「食品品質設計学」の二つの分野で構成されています。

「食品保全機能学」では、化学的・微生物学的アプローチによって、食品の安全性・健全性の確保・向上および機能性の開発を目指します。食品の多様な機能に関わる因子の探索・特定や、微生物学的安全性と品質保持を支える先端技術の開発に取り組みます。

「食品品質設計学」では、安全で高付加価値な食品の創出と、製造プロセスにおける環境負荷の低減を目指し、食品設計技術の高度化や製造プロセスにおける安全性評価システムの構築など、主として工学的視点から取り組みます。

昨今の地球環境の変化は誰もが実感するところですが、それに伴い、食品原料の変動、食品に関わる廃棄や消費熱エネルギーの増加といった環境負荷の問題が顕在化しています。このような食を取り巻く諸問題の解決にむけた知識、技術、何よりその担い手となる人材の需要は今後益々高まっていくと考えられます。本専攻では、現状の課題克服を目指すとともに、将来を見据えた新たな取り組みに果敢に挑戦できる、柔軟な発想と主体性をもつ学生を求めています。大学院での教育・研究を通じて将来に生きる力を身につけるとともに、学ぶ喜びを十分に味わって欲しいと考えています。

### 応用生命科学専攻について

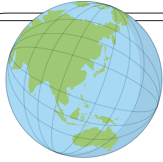
応用生命科学専攻 専攻主任 海洋生物資源学部門 教授  
近藤秀裕

応用生命学専攻は、応用生物学、食品機能利用学、応用生物工学の3つの専攻分野からなる博士後期課程の専攻です。本専攻では、海洋生物の保全、資源管理、増養殖、食品としての利用、有用物質の単離や生産を目指した先端的学理と技術を修得し、これらをもとに応用生命科学領域での研究開発・技術開発を主体的に進めることができる博士人材の養成を目指しています。

一般的に、博士前期課程が「修士課程」と、博士後期課程は「博士課程」と呼ばれることが多く、各課程を修了すると、博士前期課程では「修士」の学位が、博士後期課程では「博士」の学位が授与されます。応用生命科学専攻の定員は19名です。かつては博士課程への進学希望者が減少傾向にありましたが、近年は入学者数が増加しており、令和6年は22名、令和7年は27名が入学しています。

この背景には、国の政策方針に加え、本学における博士人材育成支援の充実があると考えられます。具体的には、「海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」や「創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト」など、博士後期課程の学生を支援する取組が進められています。また、「OQEANUS Plusプログラム」をはじめとした様々なプログラムにより、国際的に活躍できる人材の育成にも力を入れています。

社会の高度化・複雑化が進む現在、新たなイノベーションを創出する博士人材への期待と重要性はますます高まっています。学部学生の皆様には、本専攻に進学について、ぜひ前向きに検討していただけたらと思います。



# 国際交流プログラム

## 上海でできた一生の友達と、忘れられない4か月間

海洋科学技術研究科 食機能保全科学専攻1年  
河内 亜依

私は2025年2月から6月末まで、中国の上海海洋大学に留学しました。学部生時代に中国人の友達が2人できて、中国の文化を知りたいと思い中国を選びました。事前にDuolingoで中国語を軽く勉強し、研究室の留学生と話して英会話力を伸ばしてから渡航しました。春学期の中国語の授業は初級が開講しておらず、中級レベルの授業を履修しました。その授業でキューバ・パキスタン・スリランカなど多国籍な友人ができ、一緒にでけたり寮で遊んだりしました。中国人の友達も作るべく、実験を見学したり、中国人学生向けの英会話の授業を履修したり、日本語の授業に参加したりしました。中国人の子は面倒見がいい性格の子が多く、病院にかかる時に付き添って通訳してくれました。病院・スーパー・食堂の人には基本的に英語が通じず、それが中国語勉強のやる気につながりましたが、発音やアクセントが難しく、食事の注文の時に「不要辣:(辛さなしで)」を伝えられるようになるのにも時間がかかりました。日本語科の友達とよく話すようになってからは上達が早くなり、HSK4級に合格し、一人で旅行に行けるほどになりました。食事については、辛さに対する耐性はできませんでしたが、水餃子や小籠包・汁物によく入っていたパクチーが大好きになりました



「食堂での食事」筆者の水餃子右下



「多国籍な友人との国際文化祭の様子」筆者中央

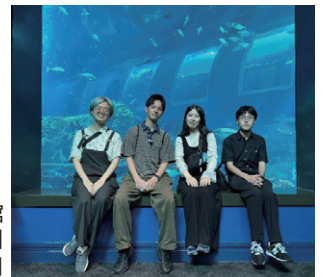
た。一番のお気に入りには「京醬肉絲」です。語学力が向上したこと以上に、今でも連絡を取り合うような一生の友人、先生方、おいしい中国料理と出会えたことが本当に嬉しいです。

## シンガポールに行ってみて

海洋生命科学部 海洋生物資源学科2年  
西 依 秀 隆

私は2025年夏、第25期海外探検隊の一員としてシンガポールで1か月間生活した。この期間私たちは現地の企業や国立大学で研修を行い、現地在住のご家族の下で数日間のホームステイもさせていただいた。研修の多くは海洋生物資源学科の学生である私にとって、とても興味深いものばかりであり、本当に有意義な体験であった。

そんな一か月のシンガポール生活の中で特に印象に残っていることがある。それは、現地でお世話になった方々の私生活での活動である。私たちが現地でお世話になった日本人の方々やホームステイでお世話になった方々は、ジャズやサッカー、ボランティア活動など仕事以外の時間にアクティブに活動なさっており、とても充実した私生活を送っているように思えた。そのような私生活の充実が、仕事をするうえでも良い効果を発揮し、仕事の成功、さらには人生を充実した形で送ることにつながるのではないかと感じた。



「シンガポールの水族館 OCEANARIUMにて」  
筆者左から2人目



「NUSでのプレゼンテーションを終えて」筆者中央

近年日本でもたびたび話題になるワークライフバランスだが、シンガポールという異国の地で、そのバランスを取りながら、活躍されている日本人の方の存在を実際にこの目で見る事ができたことはとても貴重な経験であった。また、シンガポール渡航以前の私は、将来について、日本国内で働くことのみを考えていて、海外で働くことは選択肢に入っていなかったが、今回シンガポールで働く日本人との交流を通じて、海外で働く選択肢も捨てるべきではないなと感じた。一方で、海外で働くことの苦労についてもお聞きすることができたので、自分の将来についてしっかり考えて今後の進路を決めていこうと思う。

## 異文化の海でつけた新しい視点

海洋工学部 海事システム工学科2年

今 枝 大 希

この度、NYK（日本郵船株式会社）主催の国際交流プログラムに参加し、フィリピンのNTMA（NYK-TDG Maritime Academy）で一週間を過ごした。これまでも海外を訪れる機会はあったが、その際は英語より現地語での対応が多く、実際に英語で深く交流するのは今回が初めてだった。授業や共同生活を通して密に英語を用いる環境に身を置いたことで、英語で話すことへの抵抗が大きく減り、以前よりずっと自然に言葉を交わせるようになった。一方で、他の日本人学生と比べて自分の英会話力の不足を痛感する場面もあった。しかし、それ以上にNTMAの学生は皆明るく、積極的に話しかけてくれた。気づけば、自分の英語力を気にするよりも会話そのものを楽しむことができていた。

この経験を通して、英語でのコミュニケーションに対する不安が軽減され、外航船員として働くハードルが下がったように感じる。もともと外航船員を志望していた



食堂にてデザート  
筆者左手前から2番目



最終日の集合写真 バディとともに

が、その思いはいっそう強まった。NTMAで共に過ごす中で、現地の学生の姿勢やNYKグループの文化に触れ、国際的な海事教育の現場を肌で感じた。その刺激が、今後の学びへの意欲をさらに高めてくれた。

また、異なる文化や教育環境に触れたことで、自身や日本の文化を相対的に捉える視点を得られたことも大きな収穫だった。多様な背景をもつ仲間との交流を通して、新たな考え方や価値観に触れた経験は、自分の成長に確かな糧となった。二次次の今、この貴重な体験を得られたことに心から感謝している。

## 上海でのインターンシップに参加して

海洋工学部 流通情報工学科3年

岡 竜 輝

私は、昨年の8月25日から9月5日までの10日間、中国の上海でSHART International Safety & Environment Engineering (Shanghai) LTD.のインターンシップに参加しました。研修内容としては、社内外での業務の見学や会議への参加、上海に進出している日系・中国系企業への訪問、さらに実習課題として会社パンフレットの改訂業務とAIを活用した物流の将来予測に関する考察・発表を行いました。

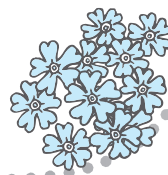
これまで海外渡航の経験はありませんでしたが、中国の文化や生活に触れてみたいという純粋な関心から、今回のインターンシップ参加を決めました。実際に現地に身を置いて体験したことは当初の想像以上に刺激的で、中国への関心をより一層深めるきっかけとなりました。企業訪問では、多岐にわたる業界を訪れて中国で働く方々と直接対話する機会に恵まれました。現地事情に最適化された経営手法や社会人としての姿勢に触れたことは、私にとって新たな視点を得る大きな学びとなりました。また、実習中に自動運転タクシーに乗りし、最新技術が社会実装されている現場を肌で感じられたことは、大学の授業だけでは得難い貴重な体験です。

このような機会をくださった先生方、SHART社の皆様、そして現地でお世話になったすべての方々へ心より感謝申し上げます。この経験を糧に、将来に向けてさらに成長していきたいと考えています。



筆者右側

## 卒業生より



# 業界で活躍している OB・OGの方々

### 客船の乗組員は専門家集団

- 1994年 3月 東京商船大学 商船システム工学課程  
(航海学コース) 卒業
- 1994年 9月 東京商船大学 乗船実習科 修了
- 1994年10月 日本郵船株式会社 入社
- 2022年12月 飛鳥クルーズ 船長就任 (14代)  
客船「飛鳥II」船長

田 口 稔

横浜に住んでいた私は、「大型客船が横浜に入港」と新聞に掲載されれば、家族で見に行くことがあったことが、船を身近に感じることに影響したのかもしれませんが。小学生の頃から船への憧れや興味が芽生え、そのまま志向も変わらず、越中島の東京商船大学に入学しました。

入学早々漕艇部（ボート部）に入部し、大学の休み期間中は、ほぼ戸田ポート場で合宿生活を過ごし、ボートを漕ぐことに明け暮れる学生生活でしたが、無事卒業することができ、航海士としてのキャリアをスタートさせました。漕艇部で培った体力は、その後の仕事で大きく役に立ったと思っています。

海上勤務では、在来船・自動車運搬船・コンテナ船・LNG船などを経験し、陸上勤務では、主に自動車運搬船のスケジュール管理や貨物ダメージを予防する輸送品質管理など、複数隻の船（フリート）にかかわる業務を経験しました。勤務地は、東京・神戸・広島の国内の他、海外勤務も経験し、船を動かすという大学で学んだ技術や知識を軸に、業務の内容も生活の場も、幅広く経験させていただきました。

今までのキャリアの大半は貨物船関連の業務でしたが、客船には15年前に3年間ほど航海士として、そして2022年からは船長として乗船しております。

客船というと、華やかで魅力あふれるイメージを抱か

れる方も多いかもしれませんが。もちろん、お客様にとってはそうあるべきで、船の規模や運航形態にも依るとは思いますが、お客様に高品質の本物のサービスを提供できるよう、各部門には専門家が働いております。レストランサービスを担当する乗組員は、陸上の有名ホテルでの業務経験を積み上げてきた者も多く、飲み物を提供する担当者にとっては、ソムリエの資格を持つ者も少なく、エンターテイメント部署では、専属ダンサーや専属ピアニストもおります。

このように、様々な専門家で構成される客船の乗組員がいる中で、翻って航海士や機関士は何の専門家でどういった専門技術を発揮すべきか？一言でいえば、航海士や機関士は海と船の専門家であり、お客様が安心・安全・快適に、クルーズスケジュール通りに船を動かし続けることです。安全定時運航、これは客船に限ったことでは無く、貨物船でも同様です。

芸達者でエンターテイメント性を持つことは、それ自体価値があることと思いますが、客船の航海士や機関士



世界一周クルーズで、南大西洋上からナポレオン終焉の地「セントヘレナ島」を望む

は、お客様に直接対応する機会は業務上わずかしがなく、それよりもまず、安全そして定時運航達成のための知識や技術を身に着けていることの方がはるかに大切です。

また、客船では、貨物船以上に乗り心地を快適に保つこと、そして船を揺らさないことが求められます。スケジュールなど諸般が許す限り、船を揺らさないように努めます。ここにも、波（風浪）の発達の仕組みや、波向きと本船針路の相対方位及び速力と船体動揺の関係など、大学で学んだ知識をそのまま活用している場面が実際にあります。

ところで、世界的にクルーズマーケットは伸びており、日本沿岸を主に航行する客船の隻数が今後増えることを伺わせるニュースも散見され、今後、客船の航海士や機関士になる機会を得る方も増えると思います。

そして、船の種類を問わず肝心なことは、大学で学び得ることに集約していると思います。

航海士や機関士を目指す皆さんは、大学で学ぶ様々な知識や技術の習得に、鋭意励んでいただきたいと思います。

## どんな経験も無駄にはならない

2016年3月 海洋工学部流通情報工学科 卒業  
株式会社 交通総合研究所 政策・企画研究室

矢原 功 健

はじめまして。私は海洋工学部流通情報工学科を卒業した後、大学院に進学して、今から10年ほど前の2016年に卒業しました。

在学中は電気自動車や自動車の走行台キョに関する研究に取り組み、大学院では後輩への接し方・時間管理等、研究面以外で社会に出て役立つ貴重な経験も積ませてもらったことから、大学院に進学して本当に良かったと改めて実感しています。

前置きが長くなりましたが、現在は「いろいろ」あって、(株)交通総合研究所にて建設コンサルタントとして都市計画に携わる仕事をしています。具体的な業務の内容としては、行政の方々と共に駐車場を軸としたまちづくりに関するルールや計画の策定がメインで、資料作成や関係者との協議・調整のほか、計画策定のための基礎調査・分析等を行っており、大学や大学院で学んだことが活かしています。

文字にすると堅い仕事と思われるかもしれませんが、調査や現地視察といったフィールドワークの機会も多く、自分が学生時代に想像していたイメージよりもずっとアクティブな職業です。ニッチな分野にはなりますが、仕事の幅はものすごく広いので、興味がある方はアルバ

イトやインターンに足を運んでみてください。

ここで先ほどの「いろいろ」あってというのは、今の仕事に就く前は、大学で学んだ分野とは全く違う「服飾の分野（物販・接客）」で働いていたからです（笑）

就職活動で失敗し、物販・接客の仕事は自分には向いていないと内心わかりつつも、「服が好きだから大丈夫」と言い聞かせながら働いておりましたが、今後のキャリアなどを考えて今の仕事に転職しました。

今の仕事に就いてから7年ほど経ちますが、振り返ってみると今の仕事では得られない経験やスキルが得られたこともあり、前職での経験は無駄ではなかったと思っています。

仕事以外でも「なんでこんなことしなくちゃいけないんだろう」と当時はネガティブに感じていたことや捉えていたもの、失敗してしまったことが、振り返ってみると無駄ではなかったということが多々あります。今の仕事は前職と比較して自分にとっても合っていて楽しく働けていますが、ネガティブに感じる局面はゼロではなく、失敗もたくさんしました。

この記事を読んでいる方々の中には、学生生活を終えてこれから社会人になる方も多いと思います。期待と不安でいっぱいだと思いますが、一足先に社会に出た自分から伝えたいことが2つあります。

1つ目は、好きなことを仕事にしても「キツイ」ことは必ずあるということ。

2つ目は、「キツイときや失敗したとき」は成長のチャンスだということ。

これから仕事をする中で無理をして何事もポジティブに捉える必要はないと思いますが、少しだけ頑張っ乗り越切れると、いつか振り返ったときに良い経験だったと思える時が必ずくるはず。どんな経験も無駄にはならないと思っています。

ありきたりな締め方になってしまいましたが、少しでも頭の片隅に置きながら社会人生活を送っていただける方がいると幸いです。



写真は社内での一枚

大学祭特集

実行委員長から

# 海鷹祭の紹介



## 「一度は来てほしい、海鷹祭」

第66回海鷹祭実行委員会委員長  
海洋生命科学部 海洋政策文化学科3年

本間斗星

「拓海」をご覧の皆様、こんにちは。第66回海鷹祭実行委員会委員長を務めておりました、本間と申します。第66回海鷹祭は三連休初日の開催が叶わなかったものの延べ19000人以上の方にお越しいただき、コロナ禍以降最多の来場者数を誇りました。誠にありがとうございました。

さて、皆様の中には海鷹祭に毎年お越しいただいている方からまだ一度もない方まで様々いらっしゃるかと思いますが、この度、元委員長の私から海鷹祭の魅力を紹介させていただきます。

海鷹祭では、海を愛する学生による多種多様な出展が

並びます。ダイオウグソクムシの串刺しや実行委員が調理・販売するマグロ料理などグルメ好きにもおすすめです。

また特定の海洋生物を対象に活動するサークルが複数あり、その生物について追究した興味深い展示がございます。その他学内団体だけでなく、目の前でプロが捌くマグロの解体ショーや、100団体以上の作家さんによるハンドメイドイベント「うみたかマルシェ」、本学客員教授のさかなクンを始めとしたゲストステージなど、毎年老若男女から大好評を博しています。

海鷹祭の魅力を言葉のみでお伝えすることは難しいですが、海鷹祭にいらしたことがない方が少しでも興味を持っていただければ幸いです。またこれまで海鷹祭にお越しいただいている方も、是非ご家族やご友人をお誘い合わせの上またお越しいただければ幸いです。



# 新任教員の紹介

海洋環境科学部門 准教授

宮本 洋臣

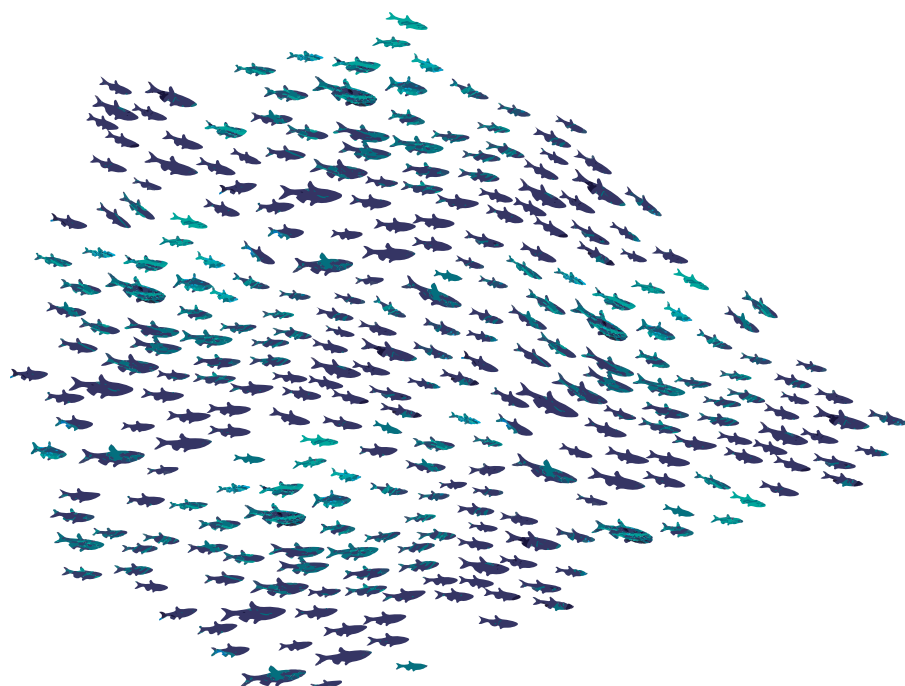


海洋環境科学部門に着任いたしました宮本 洋臣です。私は東京海洋大学（入学当時は東京水産大学）に入学し、修士課程までを品川キャンパスで過ごしました。その後、

東京大学の博士課程に進学し、学位を取得しました。博士号取得後は、水産研究・教育機構において研究開発職員として勤務してきましたが、2025年9月、約20年ぶりに品川キャンパスへ戻ってまいりました。学生時代と比べると、キャンパス周辺には高層ビルが立ち並び、街の雰囲気は大きく変わりましたが、キャンパス内には当時の面影が残っており、懐かしさを感じています。

これまで私は、一貫して動物プランクトンの研究に取り組んできました。動物プランクトン研究に興味を持ったきっかけは、学部3年次の海洋環境実習で神鷹丸に乗船したことです。実習中のプランクトンネット調査で、これまで見たことのなかった「ヤムシ」と呼ばれる生き物が数多く含まれていることに驚き、ぜひ研究してみたいと考えるようになりました。これをきっかけに卒業研究のテーマとし、最終的には博士号を取得することができました。その後、大学時代の経験を活かし、水産研究・教育機構では、サンマやマイワシなどの餌生物としての動物プランクトンに関する研究を進めてきました。

動物プランクトンの生態や生態系における役割には、いまだ不明な点が多く残されており、新種も多く存在すると考えられています。私がそうであったように、大学での授業や実習、講義、そして卒業研究を通じて、学生の皆さんが新たな知的好奇心を抱ききっかけを提供し、共に研究を進めていければと考えています。



# 学生の

# 課外活動報告

## 料理研究部

海洋生命科学部 海洋生物資源学科3年 部長

秋山 陽介

料理研究部では月2回、学外の施設をお借りして料理会を開催しています。料理の技術習得はもちろんのこと、料理や食べ物を通じた様々な人との交流も重視し、部員同士が親睦を深めています。

1～3年生合計95名で活動した2025年は大学公認団体としてのスタートを切った1年間でした。7月には冷凍食品業界のプロの方々をお招きし、冷凍食品を活用した料理会を開催しました。10月にはOBOG企画として、かつて料理研究部に所属されていた先輩方と現役部員が交流しながら料理をしました。いずれも部史上初の試みでした。

海鷹祭では、三重県紀北町で水揚げされたマンボウを使用したマンボウバーグをゼロから開発し、販売しました。食用性が一般に認知されていないマンボウを試行錯誤の末においしく仕上げ、連日大盛況となりました。販売に伴い、地元役場のご協力のもと紀北町の魅力についても発信しました。

これからも食を通して新たなことに挑戦していく団体でありたいと思います。



料理会の様子

## ネットボール部

海洋工学部 海事システム工学科2年 部長

増田 蕾夢

ネットボールは、1890年代に女性向けバスケットボールとしてイギリスで誕生しました。特徴は、ドリブルを使わずにパスのみでボールを繋ぎ、相手チームのゴールにシュートをして得点を競います。1チーム7人で行い、ポジションにより選手の移動範囲が決まっています。激しい接触は反則となります。体力や体格に応じてポジションを選びプレイすることができるので、老若男女問わずに無理なく楽しめる生涯スポーツです。

日本での知名度はあまり高くありませんが、英国圏のシンガポール・ニューージーランド・オーストラリア・スリランカ等では、小学校の体育授業でも盛んに行われています。

海洋大ネットボール部は、毎週土曜日18～21時に越中島キャンパス体育館にて、社会人チームと合同練習を行っています。私自身、海洋大入学時に初めてネットボールを知り入部しました。ネットボールを通して、これまで関わることのなかった、社会人や他大学チームの皆さんとも親しくなれ、この2年間で世界が大いに広がりました。昨年夏には、韓国で行われたアジアユース大会に、日本代表として試合に参加するという貴重な経験もできました。

海洋大での練習会には、都内在住の英語圏の選手も参加し、国際色豊かです。ネットボールは、競技としての魅力はもちろん、国際的な経験や新たな繋がりを得られる素晴らしいスポーツですので、多くの海洋大生の皆さんにも、参加していただければ嬉しく思います。



JAPAN OPEN MIX大会の海洋大チーム

# ニュース

&

# トピックス

## 2025年度海洋生命科学部・海洋資源環境学部 父母等懇談会

令和7年11月に、海鷹祭開催に合わせて、海洋生命科学部・海洋資源環境学部父母等懇談会を開催しました。昨年度と同様、品川キャンパス会場とWeb参加を併用するハイブリッド方式で開催し、事前参加申込では対面約170名、オンライン約60名の参加希望があり、多数の方にご参加いただきました。

当日は、小暮海洋生命科学部長が司会進行し、南理事・副学長（教育・学生支援・船舶運航管理担当）からは大学の現況及び本学が進めている教育改革や国際化への取

組みについて、宮本海洋資源環境学部長からは特色ある学部教育や就職、学生支援の取組みについての説明がありました。

続いて、各学部・学科教員により、事前に寄せられた質疑への回答や会場内での質疑応答を行いました。

会場、オンラインともに多数の父母等の皆様にご参加いただき、事後に実施したアンケートにおいても様々な御意見・御要望が寄せられ、大変有意義な懇談会となりました。

## 2025年度海洋工学部父母等懇談会

11月15日（土）に海洋工学部父母等懇談会を開催し、大学に実際に来ていただいていた対面とオンライン併用のハイブリッドにて実施しました。

事前申込を行ったところ、多数の参加希望があり、対面にて117名、オンラインにて129名の方々にご参加いただきました。

当日は南理事の開始挨拶から始まり、まず参加者全員に南理事より教育活動及び国際交流等の説明、久保海洋工学部長より学部の教育や創基150周年を迎えたこと等について、説明を行いました。

後半は学科ごとに分かれて質疑応答を行い、各学科では、修学状況、就職活動、乗船実習等について多数の質問をお寄せいただき、回答しました。

参加者の皆様からの質問に回答する形で本学、海洋工学部の教育活動等について、ご理解いただき、有意義な時間となりました。

参加者アンケートでは、対面・オンラインの併用を希望される意見が多かったことから、今後も可能な限り併用開催を目指す予定です。

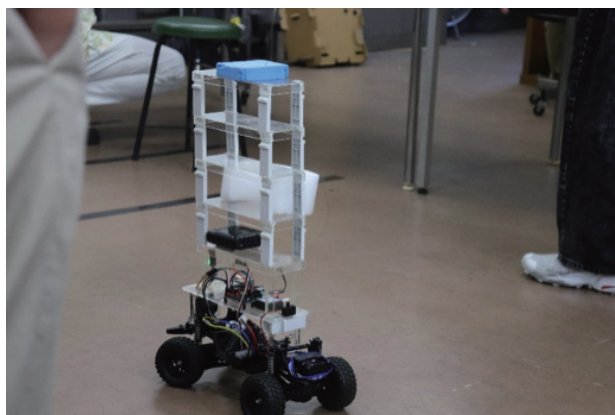
## 「海の日」記念行事を開催しました

一般の皆様には海に親しみ・興味を持っていただくために、7月21日（月）の「海の日」に記念行事を開催しました。当日は、「海の日」制定の由来となった重要文化財「明治丸」に関するシンポジウムや、プラネタリウ

ム上映会、工作教室、ポスター展示、研究室公開等、本学の教職員や学生による様々なプログラムが実施されました。会場である越中島キャンパスには、745名の方々に来場いただきました。



「海の日」制定の由来となった「明治丸」



三次元重心検知研究室公開



海で働くロボットを見てみよう



大型船を操船してみよう！

## 令和7年度9月期学生表彰授与式を行いました（令和7年9月26日）

令和7年度9月期学生表彰授与式を9月26日（金）、越中島キャンパスにおいて行いました。

授与式では、学生表彰規則に基づき、研究活動において特に顕著な研究成果を挙げた大学院学生15名に対して、日頃の努力を称え、表彰状及び記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

## 令和7年度9月期学位記・修了証書授与式を挙りました

令和7年度9月期学位記・修了証書授与式を、9月26日（金）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙りました。

今年度の卒業生・修了生は、学部卒業生6名、乗船実



式典の様子

習科修了生37名、博士前期課程修了生32名、博士後期課程修了生15名及び論文博士1名の計91名です。

来賓の方々にご臨席、保護者等の方々にご列席いただき、卒業生・修了生の門出を祝う温かい雰囲気の中での開催となり、それぞれ授与された学位記・修了証書を胸に、思い出の詰まった母校から旅立ちました。

井関学長が式典中に読まれた式辞の全文は、大学ホームページ（以下のQRコード）からご覧いただけます。

大学ホームページのQRコード



## 令和7年度10月期入学式（大学院）を挙りました

令和7年度10月期入学式を、10月6日（月）に品川キャンパス楽水会館大会議室にて挙りました。

本学では、大学院（海洋科学技術研究科）に10月期入学の制度があることから、この時期に開催しています。



式典の様子

今年度10月期は、多くの留学生を含めた、博士前期課程39名、博士後期課程24名の計63名が、東京海洋大学生として新たな一歩を踏み出しました。

来賓の方々にご臨席、保護者等の方々にご列席いただき、新入生の門出を祝う和やかな雰囲気の中での開催となりました。

井関学長が式典中に読まれた式辞の全文は、大学ホームページ（以下のQRコード）からご覧いただけます。

大学ホームページのQRコード



# 「水辺活動の安全な実施及び水難事故防止のための学習会」の開催について

～課外活動中を含めた普段の生活でも素早く冷静にAED使用や心肺蘇生法が行えるために～

夏の水辺活動シーズンを前に、すべての海洋大生が安全に楽しく水辺活動を行うことを目的に「水辺活動の安全な実施及び水難事故防止のための学習会」を開催しました。オンデマンド講義（7月8日～8月8日）と対面による心肺蘇生法実習（越中島キャンパス7月11日、品川キャンパス7月15日）を実施しました。オンデマンド講義は44団体の学生等総勢46名、心肺蘇生法実習は58団体の学生等総勢73名が参加しました。

本学習会では、特に水辺で活動を行う際の危険性や事前準備の重要性等についての講義を行い、事故防止に対する意識を高めてもらうこと、また、釣りやダイビング等の水辺で活動を行う際のマナーについても学習し、そ

の他、課外活動中を含め普段の生活で、近くにいる方が急に倒れて心肺停止という不測の事態が生じた際に、救急隊が到着する前に、素早く冷静にAEDの使用と心肺蘇生法が行えることを目的に、講義と実習を通して学習しました。

受講者からは「海洋レジャーのルールから水難事故の具体的なリスクと、それに対する実践的な対処法を学ぶ大変貴重な機会となった。実際にAEDを使う練習をする機会は貴重であった」等の感想が寄せられ、水辺活動の安全な実施及び水難事故防止について理解を深めることにつながる、内容の充実した研修会となりました。

## 心肺蘇生法実習の様子

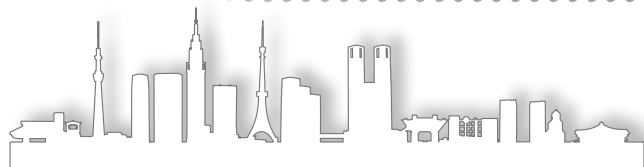
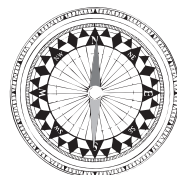
越中島開催



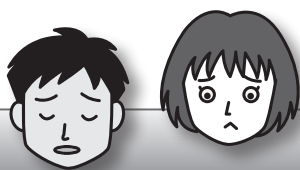
品川開催



# 学生相談室からの



## お知らせ



### 学生相談室について

#### 学生相談（カウンセリング）

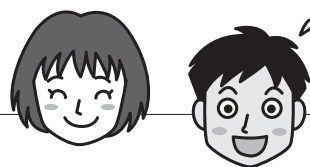
学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現してみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次

への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

なお、曜日が変更となる場合がありますので、HPをご確認ください。

#### 品川キャンパス



場 所	大学会館1階学生相談室
日 時	詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	藤田先生（女性：臨床心理カウンセラー・火曜日担当） 高橋先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

#### 越中島キャンパス

場 所	越中島会館1階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:10～16:40 詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	保健管理センターでご予約ください。 1. 保健管理センター窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

# 令和8年度 学生支援教員

## 1年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	寺原 猛	董 書 闖	
	食品生産科学科	松本隆志	小山寛喜	
	海洋政策文化学科	千足耕一	原田幸子	
海洋工学部	海事システム工学科	村井康二	内野明子	木村公彦
	海洋電子機械工学科	波津久達也	柴田恭幸	佐々木秀次
	流通情報工学科	生天目知美	茂木康平	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	牧田寛子	宮本洋臣	
	海洋資源エネルギー学科	野村 瞬	浅井咲樹	

## 2年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	壁谷尚樹	川戸 智	
	食品生産科学科	後藤直宏	中村綾花	
	海洋政策文化学科	藤本浩一	若松美保子	
海洋工学部	海事システム工学科	森 明智	西崎ちひろ	笹原裕太郎
	海洋電子機械工学科	大貫 等	市川 桂	井原智則
	流通情報工学科	渡部大輔	田上悠太	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	宮崎奈穂	田中祐希	
	海洋資源エネルギー学科	戸田勝善	尾張聡子	

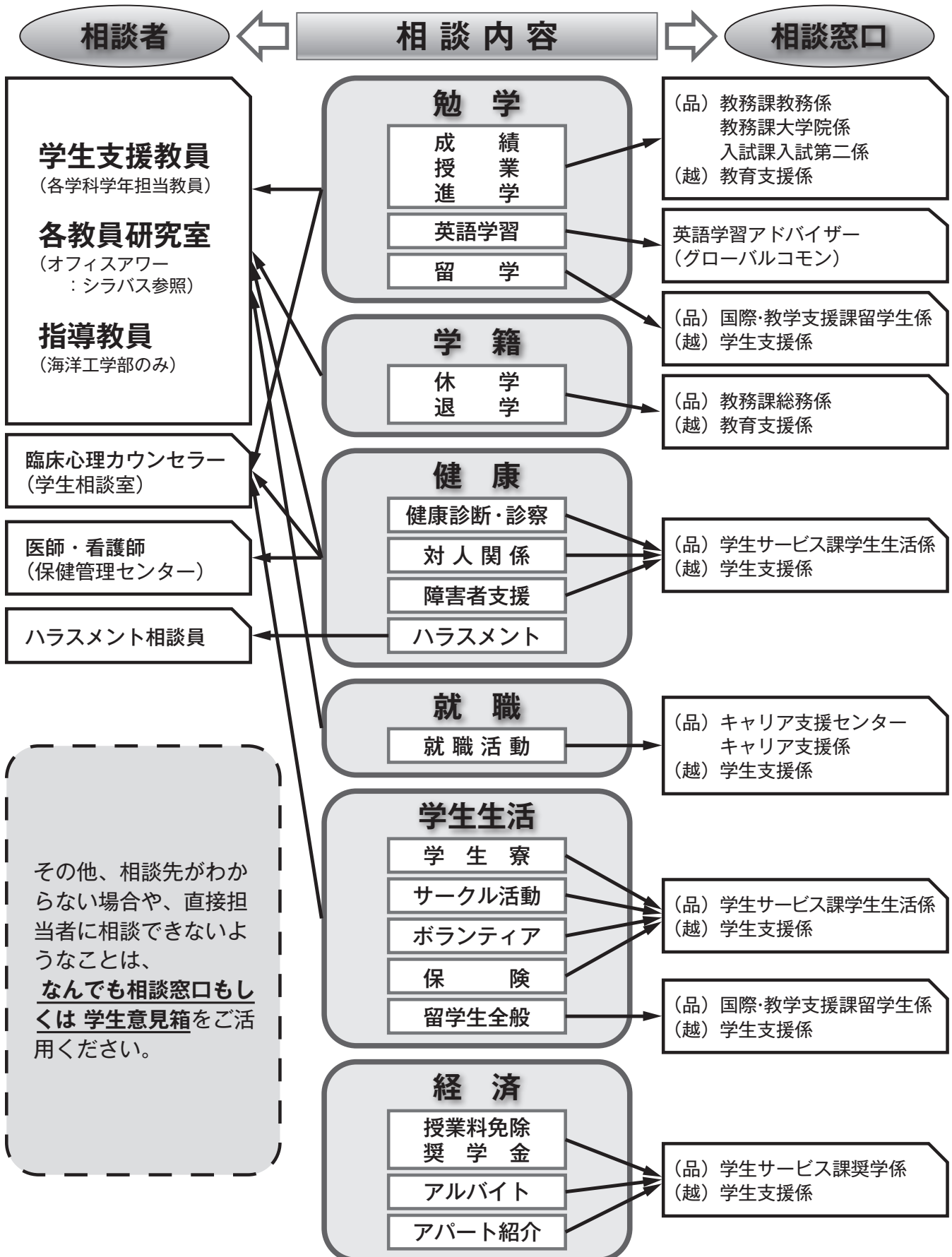
## 3年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	遠藤雅人	團 重 樹	
	食品生産科学科	萩原知明	ドマークアン ソニーポリヴァ	
	海洋政策文化学科	高橋 周	畠山 大	
海洋工学部	海事システム工学科	近藤逸人	田丸人意	平井友里恵
	海洋電子機械工学科	田中健太郎	関口美保	小嶋満夫
	流通情報工学科	黒川久幸	奥村保規	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	岡井公彦	中村 玄	
	海洋資源エネルギー学科	中東和夫	吳 連 慧	

## 4年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	岩田繁英	宮本隆典	
	食品生産科学科	ラベベレス イヴァンアントニオ	田中誠也	
	海洋政策文化学科	大河内美香	今村圭介	
海洋工学部	海事システム工学科	小橋史明	石橋 篤	松本洋平
	海洋電子機械工学科	桑田敬司	地下大輔	大島浩太
	流通情報工学科	遠藤伸明	坂井孝典	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	片野俊也	呉 海 云	
	海洋資源エネルギー学科	上野公彦	淵田茂司	

# 本学の学生相談体制について



# お知らせ

## 卓越大学院プログラムの終了報告と 海洋AI・データサイエンス学位プログラムへの誘い

海洋AI・データサイエンス学位プログラム責任者（流通情報工学部門 教授） 竹縄 知之



筆者が2021年度から責任者を務めてきた「海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」は2019年度に採択された文部科学省の補助事業であり、7年間に渡り支援を受けました。開始当初のプログ

ラム責任者は現学長の井関俊夫先生で、コーディネーターは現・海上・港湾・航空技術研究所理事長の庄司りり先生でした。その他、現コーディネーターの舞田先生を始めとして多くの教職員の方に支えられてきましたが、改めて皆様に感謝申し上げつつ、この7年間に簡単に振り返ってみたいと思います。

第一期の学生を受け入れたのは2020年度でしたが、当時は学内にAIの専門教員がほとんどおらず（現在も多いとは言えませんが）、学生にとっても「AIは自分の分野とどう結びつのか」が見えにくい状況でした。そのため、最初の2年間は学生が集まらず、運営側としても試行錯誤が続きました。

当時力を入れていたのは、AIに強い若手教員の採用や、データサイエンス系研究へのバックアップなど、まずは大学としての研究力・指導力を強化することでした。加えて、教員向けの研修、学部生向けのAI・データサイエンス教育なども少しずつ積み重ねてきました。学部生の皆さんの中には、1年次の「データサイエンス入門」をはじめとする「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を履修した方も多いと思いますが、これらも卓越大学院プログラムの成果・普及活動の一環として整備されたものです。

その後、学生への金銭的支援（研究費やRA等）を拡充

したことや、社会全体でAIが急速に普及したことも相まって、博士前期課程では定員が埋まるようになり、博士後期課程への進学率も6割を超えるようになりました。

一方で、このプログラムは手間のかかる仕組みでもあります。海洋AIコンソーシアムを通じた学外からの協力や、教員側の人的リソース投入によって成立してきました。2025年度で卓越大学院としての区切りを迎えると、今後は大学としての財政的な持ち出しも必要になります。

それでも、この取組は大学教育改革の一つのモデルになっています。海洋AIマッチングWeekを通じた企業・機関との交流、コンソーシアムを通じた専門分野における有給インターンシップ、マルチメンター制による指導教員以外からの技術面・キャリア面のセカンドオピニオンの支援、研究・生活における金銭的サポート、プログラム学生同士の交流など、手厚い支援体制を構築してきました。これらの一部は、本プログラム以外にも今後展開されていくはずで

す。卓越プログラムの成果を引き継ぐプログラムとして、2024年度から博士5年一貫の「海洋AI・データサイエンス学位プログラム」が開設されました。卓越大学院プログラム同様、全専攻横断型のプログラムとして運営しており、支援内容もほぼそのまま引き継いでいます。

言うまでもありませんが、AI・データサイエンスによって社会は急速に変化しています。海洋分野においてAI・データサイエンスを用いた研究・開発に取り組みたい学生の参加をお待ちしています。

海洋AI・データサイエンス  
学位プログラムHP



## キャリア支援センターについて

キャリア支援センターでは、専任の教員による個別のキャリア相談・エントリーシート添削・模擬面接、ワークショップ等の指導により、学生の進路選択に対する意識の向上を促しています。また「就職ガイダンス」、「企業説明会」、「公務員試験対策講座」、「企業による業界セミナー」等を開催して、学生を支援しています。学内でも各部署と連携し、進路支援体制の強化を図っています。

学部生に対しては、「在り方・生き方」を考えることを通して、自己のキャリアデザインを描くことに有益な機会を設けています。「キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の講義では、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学生から社会人へ

の視点を意識し、キャリア形成に向けた意識を高める内容としています。

大学院生に対しては、「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」を開講しています。博士後期課程学生を対象とした「レジデントシップ(ジョブ型研究インターンシップクラス)」では、自立した高度専門職業人や研究者として、進路の可能性を広げるための教育活動を実践しています。

キャリア支援センター HP



## 国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

### ◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住所
国立科学博物館(上野本館)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

### ◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6
国立工芸館 (東京国立近代美術館工芸館)	石川県金沢市出羽町3-2

東京海洋大学 公式X (@tumsat\_official)



# 緊急時連絡システムについて

## (さくら連絡網)

### 1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

- ①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。
- ②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。
- ③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

### 2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス（4件まで）、LINE、アプリ**が登録できます。**必ず登録してください。**

### 3. 登録手順

(1) さくら連絡網登録用QRコード又はURLにアクセスします。

後述の「**4.メール受信時の注意①**」で説明しているログインIDとパスワードが届いたらアクセスしてください。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、  
認証コードの入力を求められます。  
認証コード：204 441 4

(2) 連絡を受け取りたい方法を**【メール】**、**【LINE】**、**【アプリ】**から選びます。（※3種類とも登録できます。）

(3) **【メール】を選んだ場合**

①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないで下さい。）

②さくら連絡網から、メールで登録用のURLが届きます。

③URLにアクセスして、登録画面からログインIDとパスワードを入力します。

※登録した携帯電話等のアドレスにメールが届かない場合は、迷惑メールフィルタを確認するとともに、ドメイン指定受信に「school-i.net」を追加登録して下さい。

**【LINE】を選んだ場合**

①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）

②認証コード：204 441 4 を入力します。

③ログインIDとパスワードを入力します。

**【アプリ】を選んだ場合**

①さくら連絡網のアプリをインストールします。

②アプリを起動して、認証コード：204 441 4 を入力します。

③ログインIDとパスワードを入力します。

(4) メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

### 4.メール受信時の注意

①**ログインIDとパスワードは、大学からメールでお知らせします。（入学後1か月以内に、各自の海洋大アドレス及び入学手続き時に登録したメールアドレスへ送信します。）**

②緊急時連絡システムからアンケート形式で安否確認を行う場合があります。メールを受信したら、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答して下さい。

③マイページ (<https://390390.jp/parent/menu>) をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておくと、後日メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。

④配信先の変更を希望する場合やメールアドレスを変更した場合は、マイページのメニュー「連絡先を追加」から新し

い連絡先を追加し、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

⑤パスワードを紛失した場合は、本ご案内の一番下にある問合せ先（総務部総務課）へご連絡下さい。

⑥緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

### 5.個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては、「個人情報保護に関する法律」並びに「国立大学法人東京海洋大学個人情報保護規則」に基づき適切に取り扱います。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

# EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOU)”

## What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to disseminate urgent and important information displayed on the university's notice boards

## How to register

Please register for multiple email addresses (up to Four) or LINE or other apps with mobile terminals such as a mobile phone, a smart phone, and a home PC. Please be sure to register for them.

## Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumou Registration.

**\*Please access it after receiving the notification email of your ID and Passcode from the university.**

QR code



URL

<http://390390.jp>

\* If you enter the URL directory, “認証コード (authentication code)” will be required.

authentication code: 204 441 4

2. Choose how you would like to receive information from the university: “Email,” “LINE” or “app.”

\* You can also register all three.

3. **If you choose “Email,”**

① The page will move to the sending registration email screen, please send the email.

\*Please do not change the body of the email.

② Receive the registration email from Sakura Renrakumou.

③ Access the URL and enter your ID and Passcode on the registration screen.

\*If you fail to receive the email from Sakura Renrakumou, please check your mobile phone's spam filter settings and add the domain name "school-i.net" to your list of authorized contacts.

### **If you choose “LINE,”**

① Register (Add) from LINE's Add Friends button. (i.e., start from the “Talk” page).

② Enter Authentication code: 204 441 4.

③ Enter your ID and Passcode.

### **If you choose “app,”**

① Install the Sakura Renrakumou app.

② Enter Authentication code: 204 441 4.

③ Enter your ID and Passcode.

4. If the menu screen is displayed, your registration will be completed successfully.

## Notes

- Your ID and Passcode will be notified by email from the university. Within one month of your enrollment, they will be sent by email to both your university email address and the email address registered at the time of your enrollment procedure.
- It may be used to gather information on your safety through questionnaires. On receiving it, please ensure the message and reply your answer following its instructions.
- We recommend you will add the system login page (<https://390390.jp/parent/login>) to your bookmarks to access your email and passcode settings easily.
- To change your delivery settings, register for a new your email address.
- If you forget your passcode, please contact the responsible section (contact details below).
- This system is a send-only address. The university cannot receive emails sent to this address.

## Privacy policy

Your email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected by the Act on the Protection of Personal Information and the university's privacy policy. This system is used exclusively for the purposes stated above.

## Contact

General Affairs Department, General Affairs Division

Email: [so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp](mailto:so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp) Tel: 03-5463-0354

**重要!**

## ネットワーク障害防止のための注意事項

研究室等における不適切なネットワーク機器の利用によって、キャンパス全体で大規模なネットワーク障害が起こりえます。下記の点に、ご注意ください。

### ハブ等に、ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロアや建屋全体が通信不能になるなど、重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。



### 古いハブ、壊れたLANケーブルなどを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB, Switch)は、突然熱暴走を起こし、フロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後は耐用年数やサポート期限を確認し、破損状況に応じて買い替えましょう。(ハブは金属製の、1Gbps 以上対応のものをお使いください) また、古いOA タップの利用、定格電流を超えた使用、タコ足配線は火災の原因になりますので、ご注意ください。



### 研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室等で個別に設定したブロードバンドルータ、無線LAN ルータのDHCP 機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワーク設定、ケーブルの接続が正しく行われているかを点検してください。(特にWAN とLAN の間違いに注意してください)

### PC 等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するPC 等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク・SSD 等の記録媒体は破壊装置、消去装置を使って、データ消去をしてください。消去できない場合は、窓口にお問い合わせください。

## 注意 PCは最新の状態にアップデートしてください

近年、OSの脆弱性を狙ったウイルス攻撃等による情報漏えい被害が世界的に報告されており、古いOSを使うことはサイバー攻撃を受けるリスクを高めます。利用している端末OSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態に保つようにしてください。本学ではウイルス対策ソフト (Trend Micro Apex One) の提供も行っております。詳しくは、全学ICTサポートのページをご確認ください。

<https://www.ipc.kaiyodai.ac.jp/ictsupport/antivirus.html> (※学内限定ページ)

また、Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, 10, MacOS X及びmacOSにおける古いバージョンは、既にメーカーサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかにWindows11及び最新のmacOSに更新してください。

## 情報システムに関する全学問合せ窓口

メール [ict-support@o.kaiyodai.ac.jp](mailto:ict-support@o.kaiyodai.ac.jp) 内線 0446

附属図書館 (品川) 1階事務室内 (担当: 全学 ICT サポート)

## Notice!

# Precautions to prevent network failures

Inappropriate use of network equipment in laboratories can cause large-scale network failures across the campus. Please take note of the following.

## Do not connect the cable in a loop.

If both ends of the cable are connected to network devices, communication packets with no outlet will increase within the network, causing serious problems such as communication failure on an entire floor or building. Please remove unused cables from the devices.



## Do not use old hubs or broken LAN cables.

Old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failures on the entire floor due to thermal runaway. Damage to the wiring or connectors can also cause communication problems. After installation, check the service life and support period, and replace them according to the damage. (We recommend a metal hub that support 1Gbps or more.)

Also, please be aware that using old OA power strips, using devices that exceed the rated current, and using multiple power strips can cause fires.



## Set up and connect the router in the office correctly.

Incorrect settings of the DHCP function of the broadband router or wireless LAN router set up in the laboratory may cause communication problems throughout the floor or building. Please check that the network settings and cable connections are correct. (Pay particular attention to the correct use of WAN and LAN.)

## When disposing of a computer, be sure to erase all data.

To prevent information leakage from discarded PCs, etc., please use a destruction or erasure device to delete data from recording media such as hard disks and SSDs. If you are unable to delete the data, please contact the ICT Support.

## Caution! Please update your PC to the latest version.

In recent years, there have been reports of information leaks caused by virus targeting OS vulnerabilities worldwide, and using an old OS increases the risk of cyberattacks. Please keep your device OS and antivirus software up to date. Our university also provides antivirus software (Trend Micro Apex One). For details, please see the ICT Support page.

<https://www.ipc.kaiyodai.ac.jp/ictsupport/antivirus.html> (\*Campus-only page)

In addition, manufacturer support for Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, 10, MacOS X and older versions of macOS has already ended. If you are using these OSes, please update to Windows11 or the latest macOS as soon as possible.

## Information System Inquiry Center (TUMSAT ICT Support)

Email [ict-support@o.kaiyodai.ac.jp](mailto:ict-support@o.kaiyodai.ac.jp) Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

## 学生関係窓口からのお知らせ

両キャンパスの学生関係の窓口対応時間は下記のとおりです。

窓 口	窓口対応時間
<b>《品川キャンパス》</b> 学務部事務室 (講義棟1階) キャリア支援センター (白鷹館1階) <b>《越中島キャンパス》</b> 越中島地区事務室 (1号館1階)	○授 業 期 間            9:00 ~ 17:15 ○春・夏・冬季休業期間    9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
<b>《品川キャンパス》</b> 入 試 課 (本部管理棟1階)	○授 業 期 間            8:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00 ○春・夏・冬季休業期間    9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

業務等の都合により、窓口対応時間が変更となることがあります。

## 悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。

なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入会して脱退する時に苦労した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。



就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。

セミナー等の就活商法については、安易に個人情報を与えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

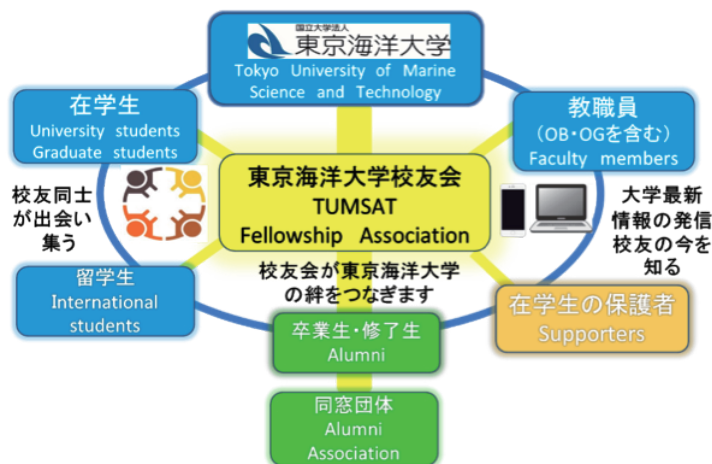
「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

(品 川) 学生サービス課学生生活係  
 (越中島) 越中島地区事務室学生支援係

# 東京海洋大学校友会のご案内

## Q1.「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

本学は、国内における唯一の海洋系総合大学として、社会全体に強くその存在をアピールしていくため、2018年4月、全学的に「校友」同士の交流を活発化させ、本学の発展に寄与することを目的として、「東京海洋大学校友会」を発足しました。校友会では、「校友」限定イベントなどの企画、「校友会ホームページ」の運営、「校友会メールマガジン」の配信等を行っています。



## Q2.「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在学生、在学生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。

## Q3.「校友会ホームページ」とは何ですか？アカウントはいつ貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトなどの機能を備えた「校友」限定ホームページです。「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。(登録及び会費は無料です。)



海洋大の「今」が分かるコンテンツや情報を発信していきます。実際にアクセスしてみてください。



(校友会ホームページ) QRコード

### 【アカウント取得方法】

- 在学生の方：大学メールアドレス（～@edu.kaiyodai.ac.jp）宛にID・パスワードを送付済みです。不明な場合は、再送も可能ですので、お気軽に校友会事務局にお問合せください。
- 卒業生・保護者の方：校友会ホームページの「新規登録」ボタンから、ぜひ申請をお願いいたします。（校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付します。）

### ★★★ご卒業を控えた方へ★★★

**【重要】**ご卒業後も引き続き利用いただけるようにするため、卒業前に「連絡用メールアドレス」の変更をお願いいたします。※初期設定の大学メールアドレスは、卒業後に使用できなくなります。（ログイン後の画面「右上⚙️(設定)」>「プロフィール」>「プロフィールを編集」>「連絡用メールアドレス」）

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。  
楽水会：<http://rakusui.or.jp/>  
海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

### 校友会に関する問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局  
電話番号：03-5463-4014  
メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

# 掲 示 版

## SNS、ブログ等の利用に関する注意事項

FacebookやXに代表されるSNS（ソーシャルネットワークサービス）、あるいはブログなどを利用していますが、インターネット上に書き込んだ内容は全世界に公開されることとなります。

転載・拡散された場合等には、長期間ネット上に残り、何らかのきっかけで問題となることがあります。SNSなどインターネットへの書き込み、写真や映像の掲載・投稿には十分注意し、個人情報は書き込まないようにしてください。

何か困ったことがあれば、周りの人に相談するようにして下さい。SNSの公式サイトヘルプや問合せ窓口なども参考にしてください。

## 闇バイトに注意

SNSに投稿されたアルバイト情報の中には、犯罪の手伝いをさせられるなど、危険なものも潜んでいます。怪しげな情報にだまされないよう注意してください。「#裏バイト」「#高額バイト」等のハッシュタグがいっぱい並ぶ投稿は、誰がどう見ても怪しく、雇用主や仕事内容の記載がなければ無視し、関心を持つのは危険です。好条件をエサに接触を待つ、勧誘目的で友達申請をする等、悪意の仕掛けはさまざまです。友人・知人が発信した情報でも、また聞かや再投稿の可能性があります。安易な連絡は絶対にやめてください。詐欺の受け子等は使い捨て、見つかって逮捕されることや、犯人グループとトラブルになるケースもあります。手っ取り早く稼ごう、スリルを味わいたいという気持ちで罪を犯すことのないよう十分注意してください。

## 薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時的な興味で接することのないよう十分注意してください。

## 盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

## 悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

## カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の社会的なカルト団体に引き込もうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいなと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、学生生活係、学生支援係まで知らせてください。

## 飲酒についての注意事項

(1) 20歳未満の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、20歳未満が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

20歳未満やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

